

学友会だより 200号への道のり

「学友会だより」発刊200号記念特集



左から創刊号・50号・100号・150号

- | | | |
|---------------------------|------|---|
| ◆ ① 創刊号発行 | ———— | 2 |
| ◆ ② 発刊サイクルと記事の内容 | ———— | 2 |
| ◆ ③ 一番ページ数が多い号は？ | ———— | 3 |
| ◆ ④ 驚異！の長期連載記事 | ———— | 3 |
| ◆ ⑤ いま語る・・・、歴代編集長の本音！ | ———— | 4 |
| ◆ ⑥ 市民大学10周年時の野島先生の祝辞〈要約〉 | —— | 5 |
| ◆ ⑦ 「学友会だより」のネット配信の開始 | ———— | 6 |
| ◆ ⑧ 現編集長の抱負 | ———— | 6 |
| ◆ ⑨ 「学友会だより」バックナンバー | ———— | 6 |

「学友会だより」は、庄和町町民大学が誕生した5年後、平成17年（2005年）4月に創刊されました。それから休むことなく発刊を続け、令和5年（2023年）9月に200号を発行することができました。

原稿を執筆した方々、編集に携わった方々、学友会会員に毎号配布していただいた方々の努力により、この日を迎えることができました。そして何よりも、学友会だよりを楽しみに読んでいただいた読者の皆様に感謝いたします。

それでは「学友会だより」が200号に至る道のりを、簡単に振り返ってみましょう。

◆ ① 創刊号発行

創刊号では「庄和町町民大学 学友会だより」と称していました。庄和町と春日部市の合併により、平成18年（2006年）4月発行の12号からは、現在の「春日部市庄和地区市民大学 学友会だより」に改称されました。

創刊号の巻頭には、当時の学友会会長沖田隆一氏の「創刊にあたって」が掲載されています。ここに再掲させていただきます。

創刊にあたって <抜粋> 会長 沖田 隆一

学友会は、ご承知のとおり、卒業生の学朋会と現役の学生会からなっています。これも他にあまり例の無い組織です。卒業生と現役が一緒になって色々な活動が出来るということは、楽しく・すばらしく・有意義なことだと思います。

学友会では、今年の活動の一つとして、会員の皆様を結ぶ会報「学友会だより」を発行することになりました。内容は、学友会・大学の行事などの情報や、会員の皆様からの投稿などです。原則として、月1回の発行です。

会員のための「学友会だより」として、充実した誌面作りをするには、皆様のご協力がなければなりません。積極的な出稿をお願いいたします。

今後とも、学友会活動には、奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

◆ ② 発刊サイクルと記事の内容

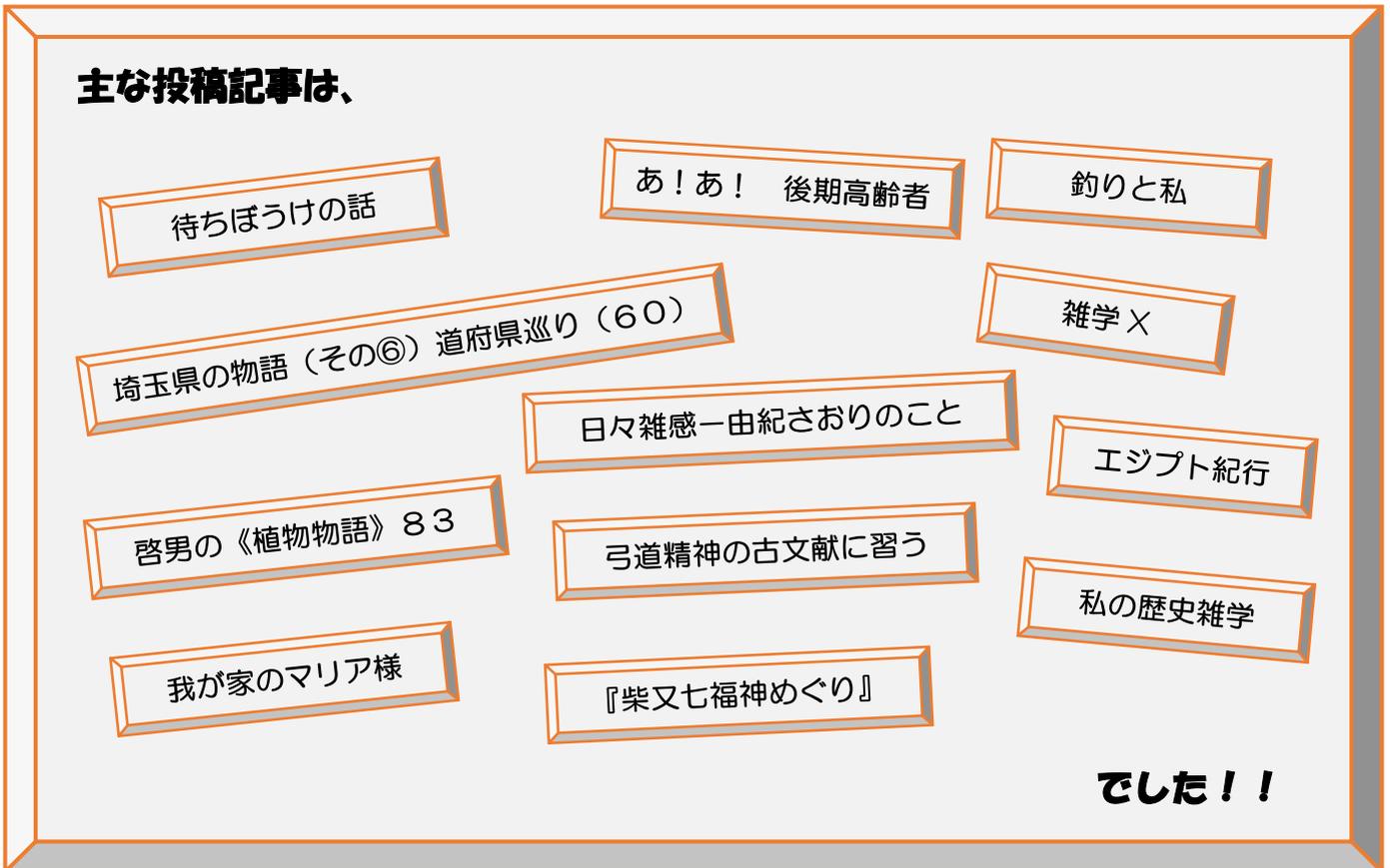
学友会だよりは創刊時から毎月発行でしたが、180号（令和2年（2020年）5月発行）から隔月発行に変更になりました。記事の内容は当初は会員からの投稿が主体でしたが、その後はクラブ活動の予定と報告、世話人会議の報告、学友会・学友会の活動カレンダーなどが掲載されています。期別の交流や親睦に関する生き生きした情報などの投稿が若い期を含めて継続されています。また令和4年（2022年）からは編集委員の体制が強化され、別冊で学友会会員の作品（書、絵画、写真、手芸など）が、写真付きで紹介されています。



埼玉県 コバトン

◆ ③ 一番ページ数が多い号は？

ここ5、6年の学友会だよりのページ数は8～12ページ程度ですが、平成25年（2013年）2月に発行された94号は、なんと32ページの大作です。ほとんどが会員の投稿記事で、10名を超える方々が投稿されています。魅力的なタイトルの記事が並んでいて、ちょっと読んでみたくありませんか？



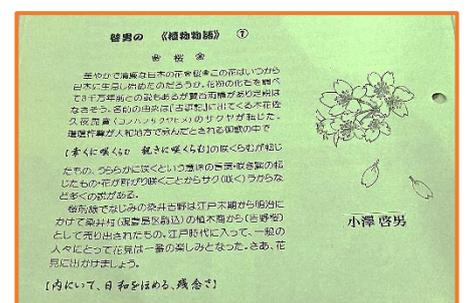
◆ ④ 驚異！の長期連載記事

学友会だよりに、びっくりするような長期の連載記事もありました。まずは121回にわたる小澤啓男さん

（4期）の『啓男の《植物物語》』です。12号、平成18年（2006年）4月から掲載が始まり、終了したのが133号平成28年（2016年）5月まで10年間、121回の連載となりました。最初は1ページの記事でしたがすぐに見開き2ページに変わり、小澤さん自らが絵筆を執った植物画が毎号掲載されています。

現在のNHK朝ドラ「らんまん」の主人公

（槇野富太郎博士）を連想させる内容です。

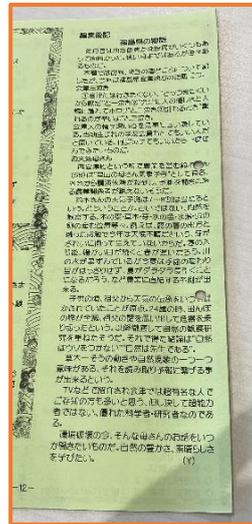


第1回の記事

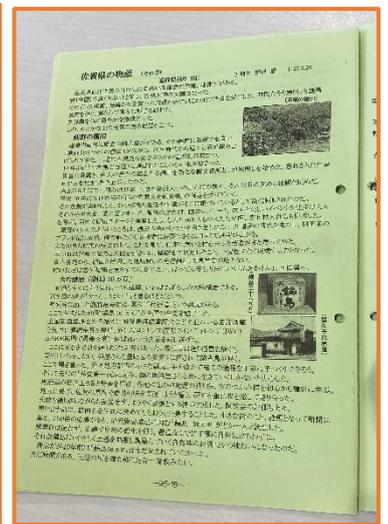


第121回の記事

《植物物語》に次ぐ長期連載は、61 回続いた柳沢豊さん（5 期）の『道府県巡り』です。学友会だよりの編集委員をしていた柳沢さんが、33 号平成 20 年（2008 年）1 月の編集後記に掲載した『福島県の物語』が始まりです。39 号平成 20 年（2008 年）7 月からは独立した記事になり、《道府県巡り》のサブタイトルを付け、日本各地の歴史・風俗・エピソードなどを紹介しています。95 号平成 25 年（2013 年）3 月発行の「佐賀県の物語（その 2）」で終了となりました。



第 1 回の記事



第 61 回の記事

◆ ⑤ いま語る・・・、編集長経験者の本音！

「学友会だより」編集長と、その在任期間は次の通りです。

| 編集長 | 氏名(期) | 発行号数 | 担当冊数 | 在任期間 |
|-------|-------------|----------|------|-------|
| (責任者) | 沖田 隆一(3期) | 創刊号～11号 | 11冊 | 約1年間 |
| 初代 | 宮武 佐治子(3期) | 創刊号～133号 | 133冊 | 約11年間 |
| 2代 | 杉本 邦男(13期) | ～154号 | 21冊 | 約2年間 |
| 3代 | 坪田 千鶴子(16期) | ～191号 | 37冊 | 約4年間 |
| 4代 | 飯野 芳子(18期) | 192号～ | 継続中 | 2年目 |

1号～179号までは原則毎月発行、180号より隔月発行に変わりました。

初代編集長の宮武さんは約 11 年という長期に渡り編集長を務め、133 冊の学友会だよりを発行されました。またお名前は省きましたが、編集長のもとには常に編集委員の方が 3 名～5 名ほどいて、編集業務を行っていました。

編集長経験者に学友会だよりへの思いを語っていただきました。

「良かったこと」

- ・杉本さん：新しい感覚で他大学会報等を参考にデザインを自由に変えられた事。体制・役割などを明確化し、引継ぎ文書として残せた事。
- ・坪田さん：指定スペースに記事がきちり収まったとき。以前は交代で世話人に修正・訂正チェックのお手伝いをお願いしていて、その世話人の 1 人が「これからは、関心をもって学友会だよりを読む」と言ってくれたこと。

「工夫したこと」

- ・杉本さん：原稿は人それぞれの思い出作りの意気込みを感じつつも依頼の難しさを痛感した。制作は多大な工数・期間が掛かり重荷だった、ミスも割り切った。
- ・坪田さん：定番記事以外の企画・記事集め。表紙に写真やイラストを採用し、発行月に合わせたデザインに変更したこと。最終ページに学友会関連の活動予定が一目で分かるように予定表を入れたこと。

「今思うこと」

- ・杉本さん：発行回数の変革「年 1 回多くて 2 回発行への挑戦」をしたかった。
- ・坪田さん：編集長の任期が決まっておらず、次の引き受け手が出てこない限り、ずっとやり続なければならないこと。年齢とともに興味や関心が、いろいろ変わってきていること。

◆ ⑥ 市民大学 10 周年時の野島先生の祝辞 <要約>

市民大学が開校 10 周年を迎えた際は、学友会だよりの 82 号（平成 24 年 2 月発行）に当時の指導教授であった野島正也先生の祝辞の言葉が掲載されています。

それによると野島先生は、市民大学開設の準備をしていた庄和町の職員の熱意に感じ入り、様々な助言をされたそうです。そして市民大学発足とともに、指導教授を引き受けられたとのこと。

野島先生は市民大学の特徴として次の 3 点を挙げています。

- ① 学年 15 人で、2 学年が同じ講座を受ける。
- ② 講座の内容は地域課題や生活設計のほか、話し合い、ディベート、意見発表、地域体験学習（宿泊を含む）等、参加型の体験学習を経験する。
- ③ 「学友会」を組織し地域活動に積極的に参加し、また市民大学の講座企画・運営にも関わる。

「市民大学のこの 10 年の実績は、社会教育が講座を通じて新たな地縁組織をつくり、市民の社会活動の機会を広げることができることを示している」と結んでいます。

また、野島先生は 2021 年に市民大学の指導教授を退任されました。20 年間に亘って指導され、「生涯学習」講座などを担当して頂き多くの学生への知的刺激とともに良き思い出として残っています。野島精神はこれからも市民大学の継続と発展に引き継がれていきます。



野島先生



野島先生退任記念誌

◆ ⑦ 「学友会だより」のネット配信の開始

2006年に白黒の紙媒体「学友会だより」で発行が始まりました。2018年の11月（163号）より、市民活動センターの「学友会ホームページ」にて「学友会だより」の閲覧が可能になりカラーの良さを会員の皆様に届けることが出来ました。

ただ、このやり方はアクセスに少し手間がかかります。そこで、会員の方が身近に閲覧できるネット配信を2022年の5月（192号）より開始しました。自分のパソコン・スマホで、速やかに美しいカラー写真を含む記事が閲覧できるので評判は良いです。現在、43名の会員が利用しています。



◆ ⑧ 現編集長の抱負

<冒頭の沖田さんの創刊にあたって>には「現役学生と卒業生と一緒に活動ができることは楽しく、素晴らしく、有意義だ」と綴られています。現在では「NPO 庄和ふる里を守る会」活動を含め多くの卒業生がそれぞれの地域活動に貢献して、当時のその思いは脈々と続いていると感じています。

今回の掲載は、発刊サイクルと記事の内容の推移、大作32ページの紹介、長期連載記事<植物物語>と<道府県巡り>の紹介に留まりましたが歴代編集に携わった方々の本音を皆様をご覧になり、関係者の努力を少しでも感じ取っていただけたら幸いに思います。



「折込・チェックの作業中」

さて、学友会運営が新体制になり会報誌作成担当になってからの私のリーダーぶりはたとえば1年目は何をしても良いのかわからないのにすることが沢山あり不安な思いを持つ反面、新しいことに挑戦するわくわく感も味わっていました。

2年目に入ってからチームメンバーも慣れてきたので会議中の発言も増え提案や意見交換も積極的にされるようになってきたことは何より嬉しいことです。現在11名で編集委員を構成していますが個人の状況に応じて**出来る人が出来ることを出来る範囲でやろう!!**をモットーに制作に取り組んでいます。（18期 飯野芳子）

◆ ⑨ 「学友会だより」バックナンバー

「学友会だより200号への道のり」を読んで昔の学友会だよりに興味を持たれた方は、バックナンバーをぜひご覧ください。バックナンバーは、庄和図書館（正面入り口から入って直ぐ右の書架）および市民大学事務局にあります。

